

5. ～調査で分かった水上オートバイ事故防止のポイント～

バナナボートやビスケットなどの浮体をえい航中の事故で、過去10年間に、浮体に乗っていた方など100人以上が死傷しています。

また、水上オートバイの最後尾に乗っていた人が落水し、ジェット噴流で内臓を損傷する事故も毎年のように発生し、これまでに10人以上の方が死傷しています。

浮体をえい航中の事故の防止対策

多くの事故は、えい航中、他船や障害物に近づきすぎたり、速力が速すぎたため発生しています。

- ・ えい航索の長さや浮体の大きさを考慮し、障害物から余裕のある距離を離して航行しましょう！
- ・ 浮体の取扱説明書に記載された速力を守り、旋回や波等を越えるときは、十分に減速しましょう！
- ・ 浮体に接近し、旋回してしぶきをかける行為は、人を死傷させるおそれのある危険な行為で、小型船舶操縦者の遵守事項違反です！
- ・ えい航中は、常時適切な見張りをを行い、他船に近づかないようにしましょう。
- ・ 浮体の状況を監視する見張り役を同乗させましょう。
- ・ 浮体をえい航している船舶には近づかないようにしましょう。

ジェット噴流事故の防止対策

ジェット噴流事故は、発進や加速の際、または旋回や航走波を越えた際などに最後尾から同乗者が落水し、噴流が身体に当たったことにより発生しています。

- ・ 船長は、取扱説明書や警告シールを読み、噴流による負傷の危険性などについて理解し、同乗者に説明しましょう。
- ・ 発進、加速の前に同乗者に合図し、同乗者が落水防止の体勢を取ったか確認しましょう。
- ・ 同乗者を乗せて旋回や波等を越える際は、十分減速しましょう。
- ・ 同乗者には、ウェットスーツボトム等を着用させましょう。
- ・ 3人乗りの最後尾は落水して負傷する危険性が高いので注意しましょう。

ルールを守って安全運航を



飲酒して操縦しない



遊泳者の危険にならない



無資格者に操縦させない



危険な操縦をしない



救命胴衣の着用は義務

イラスト提供：NPO法人 パーソナルウォータークラフト安全協会